

第一コリントの信徒への手紙クラス 「十字架の言葉は神の力です」

第一コリント1:18



東京キリストの教会

クラス2

コリントの教会に訪れた登場人物

2章：人ではなく霊の力

3章：賢い建築家

4章：パウロとの摩擦

コリントの教会の登場人物

- 1) プリスキラ・アキラ
- 2) パウロ
- 3) テモテ・シラス
- 4) アポロ
- 5) バルナバ・ペテロ

1) プリスキラ・アキラ

夫アキラ、妻プリスキラがローマから移住。そのきっかけは皇帝クラウディウスの命令。パウロと同じ職業のテント造りであり、一緒に仕事した後、ローマに帰る。

(ローマ16:3-5)

2)パウロ

- 当時40代の後半か50代の前半
- アテネから二日かけて到着した。
- 出身はタルソ、ローマの市民権持つ。
- テント造りの職人でありアキラの家に泊まり一緒に働いた。
- ここで第一第二テサロニケの手紙を書いた。

3) テモテ・シラス

- テサロニケから到着する。
- 彼らの到着によってパウロが説教に専念する。献金を集めてもってきた可能性が高い。
- マケドニアから来たということで献金はフィリピの教会によって集められたと思える。

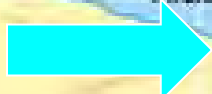
4) アポロ

- パウロ、シラス、テモテが去った後アポロが到着する（52AD）。
- アレクサンドリア出身（当時の学問の中心地）

World of the New Testament, Around A.D. 50



アレクサンドリア



アレクサンドリアの特徴

- エジプト第二の都市。アレクサンダー大王の命令と好みによって建設された都市。
- 政治の中心又は経済と文化の中心都市となった。特に教育の中心として世界一だった。
- 世界の七不思議として知られた灯台、または世界一の図書館があった。



アレクサンドリアの特徴

- 世界の七不思議として知られた灯台、または世界一の図書館があった。



現在の40階の建物の高さ
1600年以上機能した

アポロの特徴

- 教育程度の高いアレクサンドリア出身のユダヤ人
- 弁が得意だった、又は熱弁的だった
- 旧約聖書も詳しく知っていた
- 当時のギリシャでは弁論する人は「タレント」のようだった
- 当時の価値観として男は雄弁で力強くあるべきだと思われていた

パウロとアポロとの関係

- 第一コリントの手紙が書かれた時パウロと一緒にエフェソにいた
- テトス 3：13 パウロがアポロを世話してくれるようにお願いした
- アポロがエフェソで導いた弟子に対して、パウロがイエスによってのバプテスマの教義を説明し、彼らにバプテスマを授けた
- (コリントの教会と逆パターンで今回はアポロが種を蒔き、パウロが水を注いだ)

パウロとアポロとの関係

- アポロは教会が分裂していることを悲しく思い、自分のコリントの教会での有利な立場を利用しなかった
- パウロは後にアポロにコリントを訪問するようお願いしたが、教会が霊的に安定するまで遠慮して行かなかった（第一コリント 16：12）
- 二人の間に摩擦が起きる理由はたくさんあったが、しっかりといい関係を保った



5) バルナバ・ペテロ

52－54年の間バルナバもペテロも訪問する。

- ペテロ（ギリシヤ語）はヘブライ語でケファ

- 妻を連れてくる（1コリント9：1－6）

- ペテロ派が生まれる

- ペテロは教会から金銭的に支えてもらうことを期待していた。パウロは働きながら宣教したので、ペテロよりもランクが低いと見なされてしまった。

- ペテロは本物の使徒でパウロは偽者と思った

第一コリントの信徒への手紙クラス 「十字架の言葉は神の力です」

第一コリント1:18

クラス2

コリントの教会に訪れた登場人物

- 2章：人ではなく霊の力
- 3章：賢い建築家
- 4章：パウロとの摩擦

コリントの教会の登場人物

- 1) プリスキラ・アキラ
- 2) パウロ
- 3) テモテ・シラス
- 4) アポロ
- 5) バルナバ・ペテロ

1) プリスキラ・アキラ

夫アキラ、妻プリスキラがローマから移住。そのきっかけは皇帝クラウディウスの命令。パウロと同じ職業のテント造りであり、一緒に仕事した後にローマに帰る。(ローマ16:3-5)

2) パウロ

当時40代の後半か50代の前半
アテネから二日かけて到着した。
出身はタルソ、ローマの市民権を持つ。
テント造りの職人でありアキラの家に泊まり一緒に働いた。
ここで第一第二テサロニケの手紙を書いた。

3) テモテ・シラス

テサロニケから到着する。
彼らの到着によってパウロが説教に専念する。献金を集めてもってきた可能性が高い。
マケドニアから来たということで献金はフィリピの教会によって集められたと思える。

4) アポロ

パウロ、シラス、テモテが去った後アポロが到着する(52AD)。
アレクサンドリア出身(当時の学問の中心地)

アレクサンドリアの特徴

エジプト第二の都市。アレクサンダー大王の命令によってつくられた都市。

政治の中心又は経済と文化の中心都市となった。特に教育の中心として世界一だった。世界の七不思議として知られた灯台、または世界一の図書館があった。

アポロの特徴

教育程度の高いアレクサンドリア出身のユダヤ人。

旧約聖書も詳しく知っていた。

当時のギリシャでは弁論する人は「タレント」のようだった。

当時の価値観として男性は雄弁で力強くあるべきだと思われていた。

パウロとアポロとの関係

第一コリントの手紙が書かれた時パウロと一緒にエフェソにいた。

テトス 3 : 13 パウロがアポロを世話してくれるようお願いした。

アポロがエフェソで導いた弟子に対して、パウロがイエスによってのバプテスマの教義を説明し、彼らにバプテスマを授けた。

(コリントの教会と逆パターンで今回はアポロが種を蒔き、パウロが水を注いだ)

パウロとアポロとの関係

アポロは教会が分裂していることを悲しく思い、自分のコリントの教会での有利な立場を利用しなかった。

パウロは後にアポロにコリントを訪問するようお願いしたけど、教会が霊的に安定するまで遠慮して行かなかった。(第一コリント 16 : 12)

二人の間に摩擦が起きる理由はたくさんあったが、しっかりといい関係を保った。

5) バルナバ・ペテロ

52-54年の間バルナバもペテロも訪問する。

ペテロ(ギリシャ語)はヘブライ語でケファ

妻を連れてくる(1コリ 9 : 1-6)

ペテロ派が生まれる

ペテロは教会から金銭的に支えてもらうことを期待していた。パウロは働きながら宣教したので、ペテロよりもランクが低いと見なされてしまった。

ペテロは本物の使徒-パウロは偽者だと思われた。